

キタ 再発見の会 × うめらく未来 ミッション



公益財団法人都市活力研究所と一般社団法人うめらくは、共同でトークイベント「キタ再発見の会」「うめらく未来ミッション」を開催します。「キタ再発見の会」は、キタエリアで多くの時間を過ごされる方に、是非キタエリアの豊富な魅力を知っていただき、もっと好きになっていただくきっかけとして開催しています。「うめらく未来ミッション」は「地域活動家」×「地域活性仲間」＝地域文化交流の場として定期開催しています。うめらくにゆかりのある周辺の会場で開催し、未来にミッション(使命)を感じて活動する方々の実践のきっかけの場となっています。皆様に気軽に立ち寄りいただき、夜のひとときにゲストトークや意見交換を愉しんでいただければ幸いです。皆様のご参加をお待ちしております。

第7回キタ再発見の会×うめらく未来ミッション (vol.15)

□テーマ 『地域につながるビル再生ストーリー&大淀東地域の街の今』
□講師 オルガワークス株式会社 専務取締役 細川 裕之様
□ゲストスピーカー：岸本恒夫様、木下真弓様(いずれも大淀東地域より)
□日時 2018年7月4日(水) 18:30-20:30
□会場 都市活力研究所セミナールーム

今回のゲストは、北区大淀東地域でビルオーナーと共同で2017年12月に設立した新会社で空き家や空きビル再生、地域コミュニティ創出支援をおこなっているデザイナーの細川裕之さんです。前半では、大淀東地域で中心的に活動されているお二人をゲストスピーカーとして「大淀東地域の昔・今・未来」についてトークセッションをおこないます。後半では、大淀中のテナントビル「小川ビル」の5年間をかけてのコミュニティづくりと再生の物語、またその結果どのように近隣地域と繋がっていったかの事例などについて熱く語っていただきます。

■第1部 大淀東地域の街の今

(細川) 今大淀東地域の広報のサポートなどをさせていただいているという立場で、第1部ではナビゲーターを勤めさせていただきます。よろしくをお願いします。

(岸本) 大淀東地域活動協議会、大淀東地域社会福祉協議会の会長の岸本でございます。大仁八阪神社、正式には八阪神社ですが、その宮司をさせていただいております。

(木下) 大淀東地域活動協議会、大淀東地域社会福祉協議会の副会長をしております。大淀東体育厚生協会の支部長もやっています。

(細川) 大淀東地域は北区でいうといちばん西の淀川に沿った地域です。人口は6,000人ぐらいで世帯数が4,100ぐらい、今どんどん増えていっているところですよ。

(岸本) マンションが建ってきているので人口が増えてます。以前ありました朝日放送の跡地にも今マンションを建設しております、今建ちつつあるマンションも含めて900世帯がこれから増えるというかたちになっております。

(細川) 「今昔マップ3」の明治時代の地図では大仁とか浦江とか書いてあります。

(岸本) ももとの大仁村、浦江村が今大淀東、大淀西になっています。

(木下) おじいちゃんが100年ちょっと前に丁稚奉公で大阪に来て、私で3代目です。変わった所はなにわ筋、あみだ池筋といった道が広くなりました。それから昔ここには学校がたくさんあったんです。その関係でパチンコ屋さんが1軒もないのが自慢です。

(細川) ぼくはまだここに来て5年ぐらいで、地域のことに興味を持ち始めたのが割と最近なので“にわか知識”ですが、お2人にいろいろ聞きながら進めたいと思います。北区と大淀区が別になっていましたが合区になりました。その前後で何か変わったことはありますか。なんとなく旧大淀区は割と緩やかな地域が多いなというのがあるんですが。

(岸本) その空気は昔から変わらないですね。私が子供の頃に野田から天六まで北大阪線というチンチン電車が走っていました。

(細川) 子育て世代の人口が増えてると聞いているんですけど、小学校とか中学校はそれに伴って変わっていくんでしょうか。

(岸本) ももとは大淀東と西とで小学校が1校ずつあったんですけど、今は大淀小学校1校になっていますので、大淀小学校に校舎をもう1つ建てる工事をさせていただいております。

(木下) だんだん工業が衰退してマンションになるといふかたちになってきていますね。なんせスーパーがなかったんです。それが3年ほど前にライフが建った。ということはその横に300世帯のマンションがどかどかと建って、それから様子が少しずつ変わってきた。

(清水) ちょっと駅からは離れているんですけどそれでもそれがまたのどか感が出てよいです。夜でも安全ですし、明るいですし、道幅も広いので子どもにとっても危ないことがない。都会の中の子育て環境でもすごく



いいかなということはこちらのほうに住み始めました。

(細川) ここからはお2人が普段地域の中でどんな活動をされているかにスポットを当てたいと思います。まずこの「はいっ、大淀東です」というのが年に3回ほど出している広報誌ですが、これをあけていただくと活動内容が書いてあります。ラジオ体操、バザー、校庭キャンプ、卓球、写真展、避難防災訓練などなど、年間130件ぐらいは何かしらされているということにびっくりしました。実際に運営に携わられているのはどなたが主にされているんでしょう。

(木下) 昔からずっと歴史のある活動に関しては主になるメンバーはある程度決まっています。新しい事業をするときは、これをしたいと思っっている人に入ってきてもらう。毎週やっている事業として体操と脳活性化のプログラムをやっています。65歳以上の高齢者が日常的に会うので、調子の悪いことがあったら福祉コーディネーターさんにキャッチをしてもらって、保健センターや区役所などいろんなところに連絡できる。そういう細かいことをするにはやっぱり住民でないだめだと思っています。「子育てサロンゆずっこ」というのは地域のニーズが必要だと思ったので自分らで立ち上げました。

(細川) 松本さんは地域で子育てのイベントがあるというのはご存知ですか。

(松本) 私もマンションに住んでいるんですけど、マンションの下にしっかりチラシを貼ってくれているので、イベントがあることが分かるようになってきました。「ゆずっこ」さんにも一度参加させていただいてとても楽しく遊んでいただきました。

(細川) 地域の企業や学校と地域が割と連携がうまくとれている気がするんですが、その辺は何か工夫されていることがあるんですか。

(岸本) 建物を建て始めるには地鎮祭をします。その流れの中で企業とお付き合いがありまして、企業さんの方も当然のことながら地域と交流を深めるにはどうすればいいか聞かれます。

(木下) 自分たちが卒業した小学校や中学校にお返しするというのはあたりまえだと思うんですけど。専門学校の大阪医専さんは、去年から先生が若い生徒さんを何人か連れて地域の活動を見学されました。今年初めて大阪医専で「ゆずりんぴっく」を行いました。

(細川) 広報誌にも中三会館というのがでてくるんですが、中三会館というのは大淀東地域のコミュニティ会館という位置づけでしょうか。

(岸本) いろんな理由がありまして、商工会館がなくなることになりました。地域で頑張っておられる方々からなんとでも残してもらいたいという声が上がって、関係方面の多大なご協力もいただきまして今に至っています。もともと駐車場になっていた部分を部屋にして、日本ペイントさんから塗料をいただいて全部塗り替えさせていただきました。

(細川) 中三会館でのイベントの中で特に印象的だったのは、昨年年度の3月3・4日に開催された「昔があるから今がある」という写真展です。

(木下) 今お住まいの方は太平洋戦争前のことや、戦後の焼け野原だったことも知りません。さらにうめぎたの第2期工事で貨物線も地下化し



てしまったらもっとわからなくなってしまうので、どうしても写真展をやりたいなとすごく思っていました。それで前から住んでいらっしゃる方にお写真をお借りして開催しました。

(細川) 写真展のときに男性陣が昔の地図を見ながら延々2~3時間、ああやったこうやったとはなしをされているのがすごく印象的でした。

最後に大淀東地域で3月に大淀中学校という地域の中学校で防災訓練をされました。防災訓練をされた時に工夫された点とか、防災についてのお考えがあれば教えていただきたい。

(木下) 防災訓練はやはりセオリー通りの順番でいろんなことをしてたんなんです。でもついこの間の震度6の地震のときにどうだったかというとなかなかうまくいかないなと思いました。地震の翌日に高齢者の方の体操と認知症予防の教室をしましたが、来られないかと思ったらみんな来られてびっくりした。安否確認かと思いました。皆さんがつながりを求めているのかなというのをすごく感じました。

(岸本) 一人一人の気持ちに添えるような、安全で安心な街づくりができればいいなと思います。もちろん区役所さんとの連携や、地域の企業さんからの手助けも必要になってきます。この地域のボランティアさんはすごい優秀だと思っていますので、皆さんとそんな街づくりを心掛けていきたいと思っています。

(細川) 実際に防災訓練を運営されている方どうしが日常からすごく顔を突き合わせておられるので関係づくりができているんだなと感じました。大淀東地域では緩やかな空気感と人と人の距離がほどよい近さを持った関係が築かれていっていると思いました。

■第2部 地域につながるビル再生ストーリー

(細川) 第2部では大淀東地域の中にあるビルを5年ほどかけて再生してきたストーリーということで、今地域とつながらせていただけてきた経緯と、空きビルの部屋の活用についてご説明したいと思います。

大淀東地域にあるオフィスビルの1室を使ってテングマルシェという変わった名前のイベントを一人で始めました。当初は近所に広報しなかったのですが、まちの方たちに僕がやっていることを知っていただきたいと思うようになりました。転機になったのは北区まちづくりセンターが6回行ったまちづくり塾です。そこで今日のお2人を含む北区の主要な方たちや上野区長と、まちセンさんのイベントをきっかけに知り合うことになりました。

その後2017年の1月ぐらいから第1部でご紹介しました大淀東地域のマップやイベントのサポートをするようになりました。

私が入居したオフィスビルは小川ビルといいます。もともと朝日放送の跡地のすぐ横のビルでしたので、朝日放送の移転のあおりを受けて当時入居していたテレビの制作会社がごっそり移転してしまったので、いい立地の割には1/3ぐらいが空いたままでしたので、オーナーと一緒にビルを再生していこうということになりました。それが5年前で、テングマルシェというイベントを通じて、きっちりとやれば人は来てくれるということを我々が確認し始め、それなら空き室を利用して新しい働き方をする場所をつくってみようということでシェアオフィスを4年ほど前に企画しました。それがヨリドコワーキングで、ビルオーナーの小川が一念発起してつくった空間になります。

ところでシェアオフィスというのはビジネスパーソンが運営者の力量をみながら選んで借りる場所です。それで私の人脈のなさや力のなさというのを違う方法で問題解決できないかということでやりはじめたの

が、とにかくこの場所を活かすということ、つまりイベントをしながら人に来てもらおうということをやり始めました。その結果、気が付くとこの空間をめぐってくる方が年間に2,000人ぐらいになってきました。そして何か知らないけど大淀っていうところにいろんな面白い人が集まる場所ができればいいというように認知が少しずつ上がってきました。結果的にその中から徐々にシェアオフィスへの入居者が出てきました。

先ほど申し上げましたテングマルシェは、過去17回ほどビルの中で開催しました。いちばん最初はビルの1室でただ染め物のワークショップをしたいがためのイベントでした。そこにちょっとだけ食べ物とか雑貨とかを売るブースを6つ出して、1日の来場者数が40人ぐらいでした。それが今大体40ブース弱ぐらい出展していただいたい来場客が500名きてくれるぐらいのイベントになっています。イベントの趣旨としてはクリエイターたちの発掘・活躍の場をつくるというのもあるんですが、一番の目的としてはビルの中の空き室をその都度改善しながらプロモーションしていこうということ、ビルの中をコミュニティ化して人をつないでいくとか、ビルの中だけじゃなくて近隣の方との関係をつくるとか、コミュニケーションの輪を広げていくツールとしてイベントを利用していきました。

最近成長曲線というものすごく意識していて、なんでも当てはまると思っています。創業期には、質の高い活動の基盤づくりとか仕組みづくりをやる必要があると思います。基盤ができて成長期に入ってきたら成長の流れに身を任せる勇気と、成長期をきちんとした形にもっていくまでの合理的なしくみづくりが重要だと思います。一番僕が大事なと思うのは安定期をどう過ごすのかということで、衰退期が来る前に次の再成長期に向けての準備をするということ、執着心を捨てるというのがすごく大事で、安定期というのは次の成長期に向けての創業期でもあるのでいったん安定期を100ではなくて0にとらえなおして次のステップに進むということを考えるのが重要なことだと思います。大正区のほうで同じ小川といっしょに手掛けた長屋再生のプロジェクトがあって、築65年の長屋をリノベしてシェアアトリエにしたんですが、あまり無理に考えずにこの成長曲線通りにきっちりやればこの場所は必ずするに必要とされて永く栄える場所になるだろうということを実証するために研究的にやっています。

ところで最近僕が考えていることとか考え方とかをご説明出来たらいいかなと思っていくつかトピックを持ってきたんですが、山田さん、何か気になるトピックはありますか。

(山田) クリエイターが地域にかかわる意義というところを具体的に教えてください。

(細川) 社会問題を自分から能動的に解決していこうとしないクリエイターはある程度淘汰されると思っているので、僕自身が地域にかかわるというのが特別なことではなくてデザイナーとかクリエイターとしてはもう当たり前のことだよっていう時代になってほしいというのが、ここに書いてあることです。

(三本松) 会場から、新旧住民の関係はうまくいっていますかという質問がありますが、いかがでしょうか。

(岸本) 新しいマンションとつながりをどうもっていくのかということところがなかなか難しい。少しずつつながりをもたなければいけないということで、町会のほうに入っていたらこうというのを進めていっている状態です。

(三本松) 細川さんが先ほど、クリエイターは地域のことを考えないと淘汰されるというお話をされました。細川さん自身が地域の活動をサポートされているとともに、テングマルシェというイベントもされていて、これが比較的若い世代の方々にアピールできる活動だと思いますので、そういうことも通じて新住民と地域活動をつなげる接点になるのではないのでしょうか。

本日は皆様ありがとうございました。